

Rohm Music Friends[♫]

ローム ミュージック フレンズ

2022.11 | No.14

— ローム ミュージック ファンデーションの音楽文化支援情報誌 —



ライムンド・デ・マドラーソ 「ギターを弾く女性」1870年
Woman with a Guitar, c.1870 (oil on panel)
© Bridgeman Images /amanaimages

Rohm Music Friends

No.14
2022.11

ローム ミュージック ファンデーションは
音楽を通して
豊かな文化をつくることを
目指しています。

目次

- P03 活躍する奨学生 インタビュー
- P07 ローム ミュージック フェスティバル2022
- P10 京都・国際音楽学生フェスティバル2022
- P11 2022年度 奨学生のご紹介
- P13 2021年度以前奨学生 報告会
2022年度奨学生 認定式
- P15 ローム ミュージック ファンデーション
スカラシップ コンサートVol.33~41 ~希望と勇気~
- P20 ローム ミュージック セミナー2022<宮田大・チェロクラス>
- P22 Kyoto × Classics
- P24 ローム クラシック スペシャル
コバケン・ワールド in Kyoto
コバケン・ワールドVol.28
日本フィル エデュケーション・プログラム
小学生からのクラシック・コンサート2022
日本フィル 夏休みコンサート2022
- P25 新国立劇場
高校生のためのオペラ鑑賞教室
- P26 ローム ミュージック フレンズからのお便り
- P32 ロームシアター京都 ミュージックサロン
- P33 奨学生一覧

「ローム ミュージック フレンズ」とは

1991年の創立時以来、若い音楽家育成のためのさまざまな事業で関わった音楽家。
2022年11月現在 計4,732人
※複数の事業で関わった音楽家がいるため、各事業の人数合計とは一致しない。

奨学生	国内外の教育機関で音楽を学ぶ学生への奨学金の給付。	525人
音楽在外研究生	音楽家の一層の研鑽をはかるための在外研究を援助。	64人
ミュージックセミナー受講生	ローム ミュージック フレンズが講師となり、 世界を舞台に活躍する音楽家の育成を目的としたセミナー。	8人
音楽セミナー受講生	プロの音楽家の育成を目的としたセミナー。 現在までに弦楽器クラス、管楽器クラス、指揮者クラスを実施。	333人
京都・国際音楽学生フェスティバル出演者	国際交流と音楽家の育成を目的として、世界を代表する音楽学校から 音楽学生を京都に招いて開催するフェスティバル。	2,635人
小澤征爾音楽塾 塾生	オペラやオーケストラを通じて若手音楽家を育成するプロジェクト。	1,422人



活躍する 奨学生 インタビュー

VOL.14

Eriko Ara

荒 絵理子 [オーボエ]

2013年度奨学生

給付時の在籍学校:
ハンブルグ音楽院



Profile

第73回日本音楽コンクールで第1位(審査員満場一致)、併せて岩谷(聴衆)賞、E. ナカミチ賞を受賞。N響アカデミー生を経て、2009年4月より東京交響楽団の首席を務める。これまでに似鳥健彦、和久井仁、小林裕、広田智之、宮本文昭の各氏に師事。ソリストとして新日フィル、ニューフィル千葉、セントラル愛知、九響、東響、東京シティフィル等と共演。2009年度第20回出光音楽賞受賞。2010年度市川市民文化芸術奨励賞受賞。2010年より五嶋みどりが理事長を務めるミュージックシェアリングに参加し全国各地の学校を訪問している。その他、第19回日本管打楽器コンクール第4位。小澤征爾音楽塾オペラプロジェクトⅢ~Ⅷ、水戸室内管弦楽団、サイトウキネンフェスティバル、ドイツパッハゾリスデンなどに参加。現在、東京交響楽団首席奏者の他に、横浜シンフォニエッタ、ナガノチェンバーオーケストラ、東京六人組のメンバーとしても活躍。2013年度ロームミュージックファンデーション奨学生として1年間ドイツに留学。2016年2月テレビ朝日系「報道ステーション」で生演奏。東京音楽大学非常勤講師。2018年4月荒絵理子OBOE SOLO「こうもり変装曲」をCDリリース。

— はじめに、オーボエと出会われたきっかけ、音楽が好きになったきっかけをお聞かせください。

両親ともに音楽に関わっていて、その影響で2歳ごろからピアノ、小学生からヴァイオリンを始めまして、実はどちらも大嫌いでした（笑）。小学校には吹奏楽部がありまして、そこでフルートと打楽器を始めたので、中学に入ったときにまた吹奏楽部で演奏しようと思ったのですがフルートと打楽器どちらも人気楽器で、できなくて…。オーボエなら余っていると言われて、とりあえず楽器を家に持って帰ったという感じでした。

でもオーボエって、リードを自分でつくらないといけないし、それによって左右されるので、どんなに練習しようが、当日にそれがうまくいかない限り演奏が良くなるという本当に大変な楽器で。ずっとうまくいかないという感じがですね。ただ難しいからこそ、コンサートですごくうまく演奏できたとき、お客様に喜んでもらえたときの嬉しさって、何十倍にも嬉しいんです。この快感がやめられなくなる原因のひとつです。

— そんな難しい楽器をさせていて、プロを目指すと思ったきっかけは。



プロになる大変さを両親を通じて知っていたので、最初はプロになろうと思っていませんでした。だけれども世界的に有名な宮本文昭先生が30年いらしたドイツから帰国した年が私が高校三年生の時だったんです。そしてちょうど翌年から東京音楽大学で教えることになっていました。一目見るだけでもいいという存在だったのでご紹介いただいて、お会いしに行ったら、頭のてっぺんからつま先まで、オーボエ!!という感じの方でしたので、衝撃を受けて…。そして結局習わせていただくことになって、東京音楽大学に入りました。先生はその当時まだ、水戸室内管弦楽団などで演奏されていたので、そういう先生の姿を真横で見ることが、とても刺激になって、プロとしてやりたいなという風に感じたんだと思います。ですから先生に出会っていなかったらオーボエは続けていなかったと思います。

— 東京音楽大卒業後、東京交響楽団に入団されました。

卒業後、いろいろなオーケストラに参加させてもらって、それで十分音楽家として幸せだったのでオーケストラに所属するつもりはあまりなかったんです。でもまたまエキストラで参加していた東京交響楽団の奏者の枠が空いていて。すごい方たちでしたし、ぜひ入って欲しいって言うくださる人もいらしたので、そんな風な縁があって入団させていただきました。

— そうしたなか、東京交響楽団を1年休団され、2013年に奨学生としてドイツのハンブルグに留学されましたね。

留学したい、外国に行きたいと思った一番の要因はもちろん、宮本先生です。日本にいながら、本場ドイツのものを徹底して教えていただいていたので、本場のことを知りたかったというのが一番、行きたかった要因ですね。実際に行って現地の言葉、クラシックが生まれた街の風景、歴史に触れることによって、考えていたことや教わったことは正しかったんだな、と

ということがより体感できました。それプラス、世界の實力の高さを体感できたので、とても収穫になりました。そのときの経験を活かして、帰国後はできる限りのことをやっているつもりではありません。

— 奨学生時代の印象に残っているできごとをお聞かせください。

あんなすばらしい1年はなかったと思うくらいにもかかもが夢のようでした。日本において仕事で演奏を常に行っていると、コンサートを聴きに行く機会って意外と少なくなってしまうんです。でもドイツでは、学生ということもありチケットも安いですし、有名どころのオーケストラをドイツ国内、行ける限り足を運んで聴かせていただきました。それからドイツでは全然知らない演奏家でも、全然知らない現代曲でも、聴きたいから聴いてくれるって人が多くて、それが心に染みました。ちょっとしたことで、学生のあまり上手ではない演奏でもとても喜んで聴いてくださって。良かったわよってわざわざ言いに来てくださったりしたことは、嬉しかったですね。本当に人生で一番心豊かにいた年でした。ちょうど私が留学した年が、ドイツがワールドカップで優勝した年だったんです。大きい画面が街にあって、そこで皆で応援をして…。優勝した夜は、皆さん花火みたいなものをやっているうえに、バスの行き先が全部「ワールドチャン



お世話になった先生と教会でクリスマスオラトリオ



ドイツワールドカップ応援

ピオン] になって、街がどんちゃん騒ぎになっていました。日本だったら、翌日から優勝セールなんかがあるので、次の日も大変なんだろうなと思って街に行ったら、シーンとしていて…。あの騒ぎは、なんだったんだろうと、オンオフがすごいな、という経験をしましたね。

— 帰国されてからの活動は留学前から変化があったのか教えてください。

1番はいろんな意味で、力が抜けるようになった感じがしています。留学前はもっとこうしなきゃいけない、あしなきゃいけないっていう言葉に追われて活動していた気がしますけど、今は、できる最大限のことをやろうと思い活動しています。その辺りの考えが1番変わったんじゃないかなと思いますね。

— 2020年よりまん延した新型コロナウイルス感染症によって生活、活動はどのように変化したのでしょうか。

本当に大変な2年間でしたね。でも全く仕事が無くなった2〜3カ月の期間って楽器のことを考えなくてよかったんです。だからいろんなことを見つめ直す機会でもあったと感じています。今まで毎日リードのことを考えて、明日のリードどうしよう、この演奏どうしようって思って生きてたので、そうではない時間ははじめてだったかもしれません。

— 今も第一線で活躍される音楽家として、このお仕事を天職だと思えますか。

天職かどうかは分からないけれど、やっぱり根本的にクラシックの神髄が好きなんだなということに最近気が付きました。今オーケストラで作曲家の作品を演奏して、ソロや室内楽もや

らせていただいて、そういう音楽に出会えることがなによりも幸せですし、演奏家との出会いは財産だと思っています。つい先日所属する東京交響楽団にベルリンフィルハーモニー管弦楽団のクラリネットのすばらしいプレーヤーがいらして、何か特別なことをやっているわけではないんですけど、自然体でやってらっしゃるのを聴きました。一緒に音楽をするにあたって、「何かしなきゃいけない」ってだいたいの日本人が思ってしまうんですよ。だけれども何も特別なことをしないのにすばらしく弾かせる人がいて、一緒に寄り添うだけで良いという、あの感覚を体験したときに、オーボエってやっぱり音を出すのも大変だし、いろんな心配はあるにせよ、演奏することに幸せを感じて久しぶりにできたな、と思った瞬間だったんです。そういう瞬間は、言葉に言い尽くせない、良かったよって言葉では終わらないくらいの感覚になります。ですから、オーボエをやっていて本当に良かったですし、これ以上の音楽家としての喜びはないなと思っています。

— 今後取り組みたいことや、チャレンジしてみたい活動はありますか。

楽器を広める、ではないですけど、小さいうちから間近で聴いて知ってもらったり体感してもらってとても大事なことだと思うので、そういった活動を今させていたでいて良いなと思っているんです。オーボエってクラシック界では有名かもしれないけれど、日本のなかではまだマイナー、一般的には「えっなに？」っていう人も半分以上いると思うので、もう少しオーボエを広められる活動をしていきたいですね。いま自身2枚目のCDをつくっているのですが、オリジナルのオーボエの曲のほかに、オーボエが良く聴こえる作品、オーボエの旋律が活きるものをつくっていますので、引き続き広める活動はやりたいなとは思ってます。



リユーベック歌劇場にて



活躍する奨学生インタビュー

また、オーケストラというものをもう少し一般の方に身近に感じていただけるようなオーケストラプレーヤーになりたいなと思っています。

— 最後に、これからオーボエ奏者や音楽家を目指す方に伝えたいことがあれば教えてください。

厳しいですよ〜っていう言葉が先に出来ますね(笑)。やはり自分自身が大変ですから苦しい方が先に出てしまうんですよね。たった年に数回だけかもしれない喜びのために頑張ってくださいと。オーボエ、そして音楽をやっていて、良いことばかりではないし、結果が出ることばかりでもないし、認めてもらえることばかりでもないんです。でも、諦めないでクラシックを忠実に信じる。自分の信じるもの、やりたいものとかこうであると信じるものをしっかり勉強してさえいれば、必ず評価はしてもらえるはずだから、諦めないでやっていただきたい。そう思いますね。

ROHM MUSIC FESTIVAL 2022

ローム ミュージック フェスティバル

2022.4/23[土]・4/24[日]

ロームシアター京都
[メインホール/サウスホール/ローム・スクエア]

ロームシアター京都が素晴らしい音楽に溢れる2日間!
国内外で活躍するローム ミュージック フレンズなど
豪華出演者による音楽祭!



2022年4月、3年ぶりとなる有観客での「ローム ミュージック フェスティバル」を開催しました。2020年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止に、2021年は急遽オンライン配信のみとなりましたが、今年は有観客コンサートとオンライン配信の両方を実施し、ローム ミュージック フレンズを中心とした出演者たちの素晴らしい音楽をより多くのお客様へお届けすることができました。今回もフェスティバルのナビゲーターを務めた朝岡聡さんの解説と写真で振り返ります。



朝岡 聡

テレビ朝日アナウンサーとして活躍。フリーとなつてからはクラシックコンサートの司会や企画構成にも活動のフィールドを広げ、芸術ファンのすそ野を広げる司会者として注目と信頼を集めている。

3年ぶりの有観客開催となった今回は、改めてお客様と一緒にコンサートができ上がる喜びを実感するものとなりました。ソロやアンサンブルの多彩なプログラムの「リレーコンサート」、協奏曲とオーケストラを堪能できる「オーケストラコンサート」。いずれも水際立った演奏に客席は大いに沸きました。



リレー コンサート A ～萩原麻未ピアノ・コンサート featuring 岡本麻子～



萩原麻未と岡本麻子が共同で考えたプログラムは、モーツァルトの2台ピアノのソナタに始まり、ラヴェル、プーランクのフランスものが続き、締めくくりは「くるみ割り人形」の組曲。気心の知れた2人ゆえに、そのピアノ同士の「語らい」のなんと楽しいこと、自然なこと!お互いを見事に引き立てるあ・うんの呼吸にも魅せられっぱなしでした。

萩原 麻未 (ピアノ)、岡本 麻子 (ピアノ)

リレー コンサート B ～愛しきクライスラー名曲選～4人のヴァイオリニストの饗宴～

今を時めく4人のヴァイオリニストが2曲ずつクライスラーを演奏する前半では、それぞれの選曲と表現が実に個性に満ちていて飽きさせない。演奏者たちの良さをフルに引き出す黒岩航紀のピアノが見事なコンサートの縦糸的存在。全員で演奏したラストプログラム「シンコペーション」では、洒落な歌と濃厚なウィーンの香りに酔いました。



小川 恭子 (ヴァイオリン)、北川 千紗 (ヴァイオリン)、辻 彩奈 (ヴァイオリン)、山根 一仁 (ヴァイオリン)、黒岩 航紀 (ピアノ)



リレー コンサート C ～管楽器の名手たちが送る アンサンブルの愉悦～



まずは楽器紹介を兼ねた10人全員での演奏。和田薫によるオリジナル作品でスペシャル感あるオープニングとなりました。前半は木管五重奏、後半は金管五重奏のプログラム。どの曲も、卓越した個人技がつながり重なって愉悦のハーモニーとなる幸せ。アンサンブルならではの親密な響きに魅了されました。

上野 星矢 (フルート)、大島 弥州夫 (オーボエ)、濱崎 由紀 (クラリネット)、佐藤 由紀 (ファゴット)、高橋 臣宣 (ホルン)、佐藤 友紀 (トランペット)、稲垣 路子 (トランペット)、日高 剛 (ホルン)、武内 紗和子 (トロンボーン)、宮西 純 (チューバ)

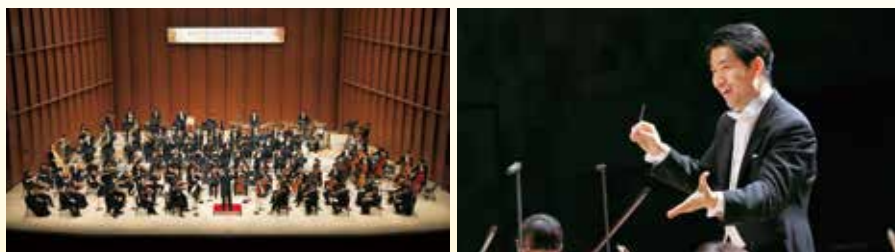
オーケストラ コンサートⅠ ～木・金・弦 3人の名手による協奏曲の祭典～



吉田誠のバセットクラリネットが、溢れる感情を心のひだまで描き切る秀逸なモーツァルトを奏でれば、菊本和昭は抜群のテクニックと音色によるフンメル協奏曲で聴衆を圧倒。典雅な曲想にあふれる情感を注ぎ込んだ横坂源のチャイコフスキーには、ロマンの香りが満ち満ちていました。とびきり贅沢な名手たちの楽器の饗宴!

角田 鋼亮 (指揮)、吉田 誠 (クラリネット)、菊本 和昭 (トランペット)、横坂 源 (チェロ)、朝岡 聡 (ナビゲーター)、新日本フィルハーモニー交響楽団 (管弦楽)

オーケストラ コンサートⅡ マーラー「巨人」×R.シュトラウス「ティル・オイレンシュピーゲル」



オーケストラの表現をたっぷり、じっくり楽しむプログラムは聴きごたえ十分! R.シュトラウスの交響詩は「音で読む物語」を鮮やかに描き、マーラー「巨人」では、作曲家自身の内面の成長過程を大オーケストラで体感する喜びを堪能。丁寧に深い作品へのアプローチのマエストロ角田と新日本フィルハーモニー交響楽団のスケールの大きな管弦楽ワールドに、惜しみない拍手が送られました。

角田 鋼亮 (指揮)、朝岡 聡 (ナビゲーター)、新日本フィルハーモニー交響楽団 (管弦楽)

久しぶりにお客様をお迎えしてのフェスティバルは、アーティストたちにとっても客席との一体感を改めて実感する場となりました。オンラインライブやアーカイブ配信も行われたほか、ローム・スクエアでは関西の中高生が収録したコンサートや過去のフェスティバル映像も上映。さまざまな方法をあわせて音楽文化を発信した2日間でした。ローム ミュージック フレンズの音楽愛は途切れることなく未来へとつながります。

音楽で 巡る世界 の国々 Travelling around the world through music

京都・国際音楽学生フェスティバル2022 Kyoto International Music Students Festival 2022

毎年5月に世界の音楽学生を京都に招いて開催する「京都・国際音楽学生フェスティバル」。新型コロナウイルス感染症の世界的なまん延という危機的状況のなか、世界の往来が難しい状況となり、2020年よりコンサート開催を見合わせておりましたが、今回は「音楽で巡る世界の国々」と題して、海外と日本の作曲専攻の音楽学生に室内楽作品の作曲を依頼し、その作品を中心とした世界各国の名曲を日本人の音楽学生が演奏する形で開催しました。作曲家と演奏者でオンラインミーティングも実施し、曲の解釈や表現・演奏方法について議論するなど、国を超えて作り上げた作品をコンサートにて演奏しました。

【参加校】海外:2校 2名 / 国内:2校 8名 (合計:4校 10名)

国	学校	参加者
ロシア	チャイコフスキー国立モスクワ音楽院	1
ドイツ	ベルリン芸術大学	1
日本	京都市立芸術大学	3
日本	桐朋学園大学	5



過去のフェスティバル出演者からのコメントも掲載!

※動画等は全て閲覧無料

<https://micro.rohm.com/jp/rmf/kimsf2021/>





石井 希衣
フルート

パリ・エコール
ノルマル音楽院
2021,2022年度



石原 悠企
ヴァイオリン[指揮]

ベルリン芸術大学
2021,2022年度



泉 優志
チェロ

東京藝術大学
2022年度



関 朋岳
ヴァイオリン

東京音楽大学
2022年度



鷹栖 美恵子
サックス

ハンブルグ音楽院
2022年度



谷 昂登
ピアノ

桐朋学園大学
2021,2022年度



梅崎 秀
ピアノ

桐朋学園大学
2022年度



尾城 杏奈
ピアノ

パリ・エコール
ノルマル音楽院
2022年度



開原 由紀乃
ピアノ

ベルリン芸術大学
2021,2022年度



東條 太河
ヴァイオリン

東京藝術大学
2021,2022年度



鳥羽 咲音
チェロ

ベルリン芸術大学
桐朋学園大学
2021,2022年度



中川 優芽花
ピアノ

フランク・リスト・
ワイマール音楽大学
2022年度



上島 緑
メンブリン

クレモナ・
モンテヴェルディ音楽院
2022年度



亀井 聖矢
ピアノ

桐朋学園大学
2021,2022年度



橘和 美優
ヴァイオリン

東京藝術大学
2021,2022年度



東 亮汰
ヴァイオリン

桐朋学園大学
大学院
2021,2022年度



福田 麻子
ヴァイオリン

東京音楽大学
大学院
2022年度



福丸 光詩
作曲

東京音楽大学
2022年度



栗原 峻希
バリトン

サンカルロ劇場
オペラ研修場
2022年度



桑原 志織
ピアノ

ベルリン芸術大学
2021,2022年度



佐々木 つくし
ヴァイオリン

東京藝術大学
2021,2022年度



保崎 佑
ラッパ

東京音楽大学
大学院
2022年度



本田 莉愛
ヴァイオリン

ジュリアード音楽院
2022年度



望月 晶
ピアノ

桐朋学園大学
大学院
2022年度



佐山 裕樹
チェロ

桐朋学園大学
2021,2022年度



柴田 花音
チェロ

トロント王立音楽院
グレン・ゴールド・スクール
2022年度



清水 伶
フルート

ジュネーブ
高等音楽院
2022年度



山縣 美季
ピアノ

東京藝術大学
2022年度



山本 英
フルート

東京藝術大学
大学院
2022年度



吉田 一貴
テノール

アッリーゴ・
ボーイト音楽院
2022年度



2021年度以前奨学生 報告会・2022年度奨学生 認定式

2022年7月29日・8月22日に、2021年度以前の奨学生の報告会と2022年度奨学生の認定式をホテルモントレ京都にて開催しました。

公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーションやローム株式会社の事業の紹介の後、奨学生より今後1年間の抱負や奨学金給付期間中の勉学状況報告を発表していただきました。



[7/29 集合写真]



[8/22 集合写真]

認定式、報告会の様子



アーティスト研修会

認定式・報告会と同時に、奨学生の皆さんのさらなる活躍を目的としたアーティスト研修会も開催しました。この研修会は、クラシック音楽界の第一線で活躍されている方を講師として招へいし、講義を行っていただくものです。今回は、ソニーコンピューターサイエンス研究所シニアリサーチャー兼一般社団法人NeuroPiano代表理事 古屋晋一様を講師として招へいし、「表現の限界を突破するための脳と身体と心の理解」というテーマで講義をしていただきました。

講義の様子



古屋晋一

ハノーファー音楽演劇メディア大学 音楽生理学・音楽家医学研究所 客員教授、上智大学 特任准教授、東京藝術大学 京都市立芸術大学、東京音楽大学 非常勤講師。大阪大学基礎工学部卒業後、医学系研究科にて博士号(医学)を取得。日本学術振興協会特別研究員PD、海外特別研究員、フンボルト財団招聘研究員を歴任。神経科学や身体運動学の手法や考え方をを用いて、音楽を愛するすべての人の健やかで創造的な演奏活動を支援する学術・教育基盤の確立に力を注いでいる。(活動詳細は上記QRコードからご参照ください)



演習の様子

講義だけでなくグループ演習の時間も設けられ、さまざまな専攻の奨学生が活発な議論を交わしました。



Voice

奨学生の感想

- ・グループ演習において他専攻の方と意見交換をできたことで自分の楽器にもつながる発見がたくさんあり、大変有意義な時間となりました。
- ・体や脳のことを分かりやすく教えていただき、とてもクリアになり、今後の取り組み方や自分との向き合い方を知ることができました。



次世代を担う若き音楽家たちが奨学生期間の成果を披露!

ローム ミュージック ファンデーション

スカラシップ コンサートVol.33~41 ~希望と勇気~

奨学金給付期間中または給付終了直後の音楽学生が出演し、奨学生期間の学びの成果を披露するコンサートです。音楽ファンの拡大と、若い音楽家への演奏機会の提供を目的に2013年より継続して開催しています。今年度は9公演に、2019~2021年度奨学生が出演し、今年のテーマ『希望と勇気』に合わせて、さまざまな楽器のソロ演奏やアンサンブルなど、フレッシュな演奏を披露し多くのお客様にお楽しみいただきました。



<スカラシップ コンサート>
京都公演@京都府立府民ホール“アルティ”
2021. 7.30 Vol.33、Vol.34
7.31 Vol.35
8.19 Vol.37
8.21 Vol.38 完売!
Vol.39 完売!

東京公演@浜離宮朝日ホール
2021. 8. 7 Vol.36
8.27 Vol.40、Vol.41

Vol. 33

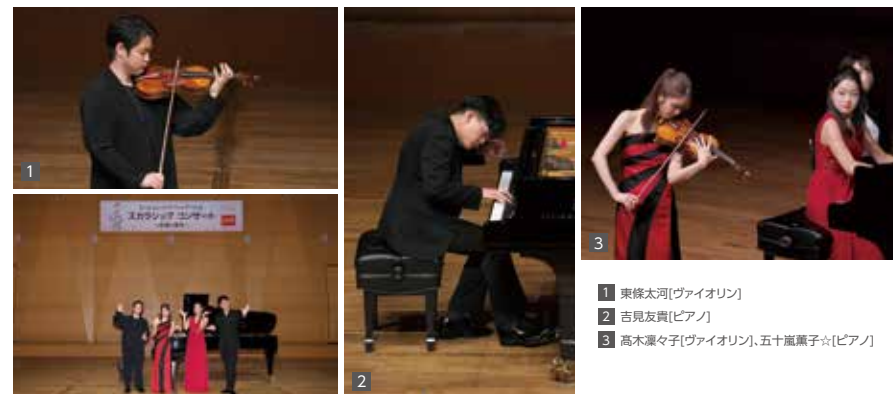


1 佐山裕樹[チェロ]、上野明子[ヴァイオリン]、山本明尚[音楽学]、吉見友貴[ピアノ]

3 佐山裕樹[チェロ]、吉見友貴[ピアノ]

2 上野明子[ヴァイオリン]、吉見友貴[ピアノ]

Vol. 34



1 東條太河[ヴァイオリン]

2 吉見友貴[ピアノ]

3 高木凛々子[ヴァイオリン]、五十嵐薫子[ピアノ]

Vol. 35



1 土岐祐奈[ヴァイオリン]、リード希亜奈[ピアノ]

2 小野田健太[作曲]、久末航[ピアノ]※

3 橋和実優[ヴァイオリン]、吉武優☆[ピアノ]

4 久末航[ピアノ]

※作曲の奨学生がスカラシップコンサートのために創作した作品を器楽の奨学生が演奏し披露しました。

☆:過去奨学生

©佐々木卓男



次世代を担う若き音楽家たちが奨学生期間の成果を披露!

ローム ミュージック ファンデーション

スカラシップ コンサートVol.33～41 ～希望と勇気～

Vol. 36



- 1 太田糸音[ピアノ] 2 向井響[作曲]、土岐祐奈[ヴァイオリン]※ 3 香月麗[チェロ]、樋口一朗☆[ピアノ] 4 有富萌々子[ヴァイオリン]、古海行子[ピアノ] 5 吉見友貴[ピアノ]

©各務あゆみ

Vol. 37



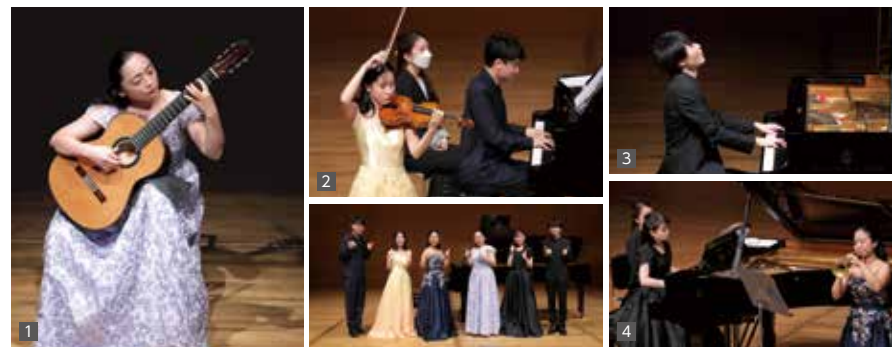
- 1 齋藤優貴[クラシックギター] 2 石井希衣[フルート]、開原由紀乃[ピアノ] 3 石原悠企[ヴァイオリン]、佐藤元洋[ピアノ] 4 荒井優利奈☆[ヴァイオリン]、木口雄人[ピアノ]、向井航[作曲]※

©佐々木卓男

※作曲の奨学生がスカラシップコンサートのために創作した作品を器楽の奨学生が演奏し披露しました。

☆:過去奨学生

Vol. 38



- 1 山下愛陽[クラシックギター] 2 佐々木つくし[ヴァイオリン]、小井土文哉[ピアノ] 3 佐藤元洋[ピアノ] 4 三村梨紗[トランペット]、秋山紗穂[ピアノ]

Vol. 39



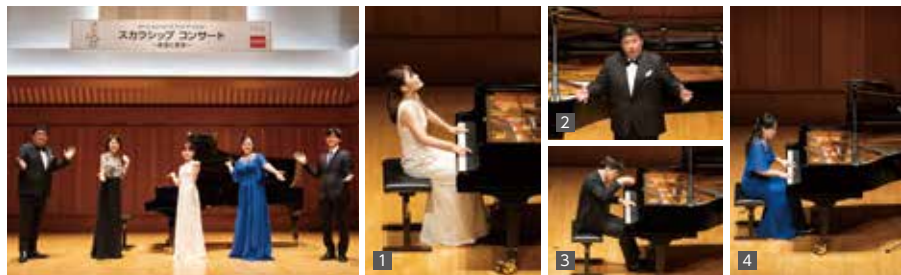
- 1 小井土文哉[ピアノ] 2 鳥羽咲音[チェロ] 3 リード希亜奈[ピアノ] 4 服部百音[ヴァイオリン]、小井土文哉[ピアノ]

©佐々木卓男



次世代を担う若き音楽家たちが奨学生期間の成果を披露!
 ローム ミュージック ファンデーション
 スカラシップ コンサートVol.33～41～希望と勇気～

Vol. 40



1 古海行子[ピアノ] 2 清水勇磨[バトン] 3 谷昂登[ピアノ] 4 桑原志織[ピアノ]

Vol. 41



1 秋山紗穂[ピアノ] 2 中橋裕紀[作曲]、石原悠企[ヴァイオリン]※ 3 進藤実優[ピアノ] 4 高橋穂[ソプラノ]、古兼加奈子[ピアノ]

※作曲の奨学生がスカラシップコンサートのために創作した作品を器楽の奨学生が演奏し披露しました。
 ☆:過去奨学生

©各務あゆみ



世界で活躍するローム ミュージック フレンズによる音楽家育成セミナー
 ローム ミュージック セミナー2022
 <宮田大・チェロクラス>



今年も宮田大さんを講師に迎え、3回目となる「チェロクラス」を開催いたしました。
 宮田さんは音づくりや感情表現の方法をさまざまな言葉にして受講生に伝えており、5日間のレッスンで受講生の演奏は大きく変化していました。今回は既に海外のオーケストラで活躍している受講生も参加し、技術面の指導だけでなくプロの音楽家の在り方について議論する様子も見られました。また、3年振りにジュリアン・ジェルネさんが来日し、受講生たちは講師や他の受講生だけでなくピアニストとのディスカッションでも学びを深めていました。
 最終日には成果発表のコンサートが行われ、受講生のソロ、講師のソロに続きチェロアンサンブルの演奏で多くのお客様に楽しんでいただきました。

セミナー:2022.8/1～8/5、コンサート:2022.8/6

ロームシアター京都 サウスホール

セミナーの様子

講師:宮田 大(チェロ)
 ローム ミュージック ファンデーション
 2010～2012年度奨学生
 2003、2004年小澤征爾音楽塾塾生
 ピアニスト:ジュリアン・ジェルネ、津田裕也(レッスンのみ)

コンサート終了後の受講生と講師の様子



©佐々木卓男

受講生

(五十音順)



香月 麗



佐藤 桂菜



佐山 裕樹



水野 優也



三井 静

コンサートの様子



Voice

受講生の感想

- ・宮田さんの素晴らしいレッスンを実際のコンサート会場、そして素晴らしいピアニストのもと、受けることができたと満足な1週間でした。
- ・これまでに日本国内外の多数の講習会に参加してきましたが、全てがトップのクオリティで受講生たちがレッスンとコンサートに集中できるように努力していただいていることをひしひしと感じました。
- ・日本の他のセミナーと比べても、これだけ恵まれた環境のなかで学べるセミナーはないと思います。今後も続けていただけたら嬉しいです。

©佐々木卓男



歴史ある京都の名所と伝統あるクラシック音楽を結ぶオンラインコンサート

「Kyoto × Classics」

オンライン配信ならではの企画として行っている、ローム ミュージック フレンズが京都の神社仏閣や歴史遺産でコンサートを行うKyoto×Classics。

演奏が素晴らしいことはもちろん、京都の歴史ある場所とのコラボレーションはこの企画ならではの映像となっております。またナビゲーターによるトークも必見です。アーカイブ配信はすべて無料で視聴いただくことができますので、ぜひともご覧ください。



配信中のローム
ミュージック
チャンネルはこちら

Vol.3 増田徳兵衛商店

～伝統と革新を醸す伏見酒蔵に響くチェロの調べ～

< 出演 >

チェロ：笹沼樹／ナビゲーター：古坂大魔王、中村葵

古くから酒蔵のまちとして酒造りが盛んであった京都・伏見。その酒蔵のひとつである増田徳兵衛商店にて黛敏郎作曲のBUNRAKUからバッハ作曲の無伴奏チェロ組曲まで、幅広い曲目でチェロの魅力をお楽しみいただけます。



Vol.4 帯屋捨松

～クラシックギターが紡ぎ織り成す西陣のタベ～

< 出演 >

クラシックギター：山下愛陽／ナビゲーター：山口智充

伝統的な織物である西陣織で帯を創る帯屋捨松でクラシックギターの響きをお楽しみいただく内容となっています。演奏中に着用している衣装はこの公演のために制作された西陣織のものであり、ぜひこの衣装にもご注目ください。



Vol.5 大覚寺

～平安より受け継がれし寺院に華やぐピアノ三重奏の響き～

<出演>
ヴァイオリン：小林美樹、チェロ：上村文乃、
ピアノ：阪田知樹／
ナビゲーター：佐々木蔵之介

古の時代の風景が残る大覚寺は嵯峨御流という生け花の発祥の地としても有名であり、演奏会場にはすばらしい生け花が生けてあります。豪華な襖絵もヴァイオリン、チェロ、ピアノのすばらしい演奏を引き立てています。



<2022年10月時点のラインアップ>

- Vol.1 常寂光寺 チェロ：中木健二、佐藤晴真/ナビゲーター：中村葵
- Vol.2 元離宮二条城 ピアノ：日高志野/ナビゲーター：別所哲也
- Vol.3 増田徳兵衛商店 チェロ：笹沼樹/ナビゲーター：古坂大魔王、中村葵
- Vol.4 帯屋捨松 クラシックギター：山下愛陽/ナビゲーター：山口智充
- Vol.5 大覚寺 ヴァイオリン：小林美樹・チェロ：上村文乃・ピアノ：阪田知樹/ナビゲーター：佐々木蔵之介

【2021年度のKyoto×Classicsの様子】



ROHM CLASSIC SPECIAL

日本フィルハーモニー交響楽団

コバケン・ワールド in KYOTO Vol.2 /コバケン・ワールド Vol.28

(ローム ミュージック ファンデーション助成、ローム株式会社協賛)

「コバケン・ワールド」シリーズは、2004年8月より「コバケン・ガラ」というタイトルで始まった、日本フィルハーモニー交響楽団桂冠名誉指揮者の小林研一郎さんが自らお客様へ舞台から語りかけ、指揮をするという人気のシリーズです。

2022年6月4日(土)、2度目となる京都公演がロームシアター京都にて開催されました。本公演は翌日に開催された東京公演と同プログラムで、ソリストには当シリーズでも幾度となく共演し大好評を得ているヴァイオリニスト千住真理子さんをお迎え。長年の共演を重ねているアーティスト同士だからこそ生み出せる味わいのある音色で東京と京都の観客を魅了しました。



撮影：佐々木卓男



撮影：山口敦

日本フィル エデュケーション・プログラム 小学生からのクラシック・コンサート2022

(ローム ミュージック ファンデーション助成、ローム株式会社協賛)

「クラシック音楽は敷居が高い」「分かりにくい」というお子様や親御様のために、クラシック音楽を楽しむためのヒントを紹介するコンサートが、2022年5月5日(木・祝)にロームシアター京都で開催されました。新型コロナウイルス感染症の影響で2年連続中止となっていたため、待ちに待った公演に、会場は大いに盛り上がりました。



撮影：豆塚猛

日本フィル 夏休みコンサート2022

(ローム ミュージック ファンデーション助成、ローム株式会社協賛)



撮影：佐々木卓男

日本フィルハーモニー交響楽団が、「生のオーケストラ音楽を、親子そろって楽しく、分かりやすく」「やわらかな感性を持つ子どもたちに音楽の持つ力のすばらしさを届けたい」というコンセプトで47年にわたって行っているファミリーコンサート。その京都公演が、7月27日(木)にロームシアター京都にて開催されました。ベートーヴェンの「運命」から始まり、「白鳥の湖」・鬼滅の刃のテーマ曲と、壮大なハーモニーを目の前に、子どもたちの目は終始輝いていました。



新国立劇場

高校生のためのオペラ鑑賞教室「蝶々夫人」

(ローム ミュージック ファンデーション助成、ローム株式会社協賛)

若い世代に、優れたオペラを鑑賞する機会を通して芸術文化のすばらしさを伝えるため、新国立劇場にて1998年からスタートしたこの鑑賞教室。

2008年からは関西でも開催し、2016年からはロームシアター京都で開催されています。

音楽文化の普及と発展には、優秀な音楽家の育成とともに音楽ファンの拡大も重要との考えから、ローム株式会社は1999年から、ローム ミュージック ファンデーションは2008年から毎年継続的に支援しています。今年の東京公演では6日間で計9,149名の感性豊かな高校生が鑑賞し、大盛況のうちに幕を閉じました。この鑑賞教室が、多くの高校生にとってオペラに親しみ、そして楽しむきっかけになることを願っています。



提供:新国立劇場、舞台写真撮影:寺司正彦

Voice

鑑賞した高校生の声 アンケートより

- ストーリー、出演者さんの歌唱力、衣装、何から何まで感動的で終盤、自然と涙が出てきました。またオペラを観てみたいです!
- 初めて観ましたが、本当に凄かったです。役者さんの演技から、音楽から、舞台の照明や飾りまで、約2時間ずっと楽しませてもらえました。ありがとうございました。
- とても、はかない物語だと感じた。とても面白くて、2時間以上あったはずの時間が一瞬で過ぎるくらい熱中できた。
- 蝶々夫人はずっと観たい演目だったので、今回観ることができて良かったです。オペラのチケットは一般的に高く、高校生が簡単に手を出せるものではないので、2200円で観ることができたのはとてもありがたかったです。

ローム ミュージック フレンズからの

お便り

The letter from rohm music friends

ローム ミュージック フレンズから届いたご活躍の様子を一部ご紹介します。(順不同)

氏名【専攻】 援助年度
給付時の在籍学校



国際コンクールへの挑戦

かめい まさや
亀井 聖矢【ピアノ】 2021、2022年度奨学生
桐朋学園大学



©T.Tairadate

今年は自分にとって大きなチャレンジをしたいと思い、3つの国際コンクールに挑戦することを決めました。ひとつ目に受けたマリアカナルス国際ピアノコンクールでは第三位を受賞し、次のヴァンクライバーン国際コンクールではセミファイナリスト。もちろん結果が出るたびに嬉しかったり悔しかったりしますが、これらの挑戦のなかで終わりなき追究・練習を繰り返し、全身全霊で作品たちに向き合っているうちに、今までよりもっと音楽を好きになっている自分がいることに気がつきました。これからもいろいろなことに挑戦し、その過程のなかで自分の個性を磨いていきたいと思います。

※3つ目のコンクールであるロン＝ティボー国際音楽コンクールにて第一位を受賞



ヴァンクライバーン国際コンクール、セミファイナルでの演奏



神戸国際フルートコンクール

いしい きえ
石井 希衣【フルート】 2021、2022年度奨学生
パリ・エコールノルマル音楽院



©Shigeto Imura

2022年3月に行われた神戸国際フルートコンクールにて第三位を受賞いたしました。世界三大フルートコンクールのひとつとされる権威あるコンクールにて入賞させていただき大変光栄です。今後自分がどんな音楽家に成ってゆくべきか、いただいた評価にふさわしい音楽家で居続けられるよう、今後さらに努力をしていかなければと想いを強くしております。来年神戸で開催される受賞者コンサートに向けて、パリでの残り少ない時間を噛み締めながら過ごしたいと思います!



上/ブチ・マルメゾン城でのサロンコンサート

下/パリ管弦楽団首席奏者のヴィセンソ＝ブラッツ氏、フランス国立管弦楽団首席奏者シルヴィア・カレドゥ氏とともに



古楽、モダン、両方面で

かみむら あやの
上村 文乃 [チェロ] 2015、2017年度奨学生
パーゼル音楽院(スイス)



コロナが始まった2020年に完全帰国し2年が経ちました。大変ありがたいことに、留学中出会った古楽器でのピリオド奏法、また幼い頃から弾き続けているモダンチェロのどちらの方面でも演奏の機会をいただくことができ、充実した日々を送っています。今夏にはアメリカで開催されたインディアナポリス国際バロックコンクールにて優勝することができ、来年ナグソス社からCDを発売することが決まりました。モダンチェロでは、グルダ作のチェロ協奏曲を演奏したり現代曲も積極的に取り組んでいます。留学中何不自由なく学ばせていただいたことに心から感謝しております。



上/インディアナポリスにて。まだ本選の前に集合写真、少し緊張気味。
下/沼尻監督と神奈川フィルさんのグルダ協奏曲のカーテンコール。満員のお客様に支えられて。



ROHM MUSIC FESTIVAL 2022 in TOKYO

よしだ ともあき
吉田 友昭 [ピアノ] 2011~2013年度奨学生
ローマ聖チェチーリア国立音楽院 ギルトツブルク・モーツァルテウム音楽大学



東京の紀尾井ホールにて開催されたローマ ミュージック フェスティバルにおいてドヴォルザークのピアノ五重奏で出演させていただきました。帰国して8年が経ち、室内楽を演奏時に最年長であることも普通となりました。舞台上では皆平等責任であり、年齢立場は関係ないという信念が私にはあります。パートナーから珠玉の音色や演奏スタイルを学び、舞台上では音楽を共有して音で語り合っている感覚が土台となり、創造的閃きが靈感や情熱として各々に湧いて発揮されます。最高の環境で最高のパートナーたちに出会えた機会に心より感謝申し上げます。



すばらしい演奏家達とともに



オーストリアの音楽を日本の皆様に

よしかね かなこ
吉兼 加奈子 [ピアノ] 2011年度奨学生
ザルトツブルク・モーツァルテウム音楽大学



私の留学地はモーツァルト生誕の街ザルトツブルグ、そして音楽の都ウィーンです。また、私の師事した教授たちはリリー・クラウス、パウル・パドゥラ=スコダ、アルフレッド・ブレンデルから学んでおり、私もこのウィーンを代表する歴史的なピアニストの孫弟子となります。その名に恥じないよう、じっくりと向き合っているのはやはりモーツァルト、シューベルト、ベートーヴェン。オーストリアに住んでこそ知った国の空気感、言語を習得することによって見えてくる音楽の一面は留学生活無しには得られなかったと思います。現在は日本を拠点に、この3人の作曲家の作品をソロリサイタルで常に取り上げています。また、ウィーンフィルの方と演奏をする機会にも恵まれ、アンサンブルも楽しんで演奏しています。



ウィーンフィル首席フルート奏者
アウアー氏とのリサイタル



仙台国際音楽コンクール、ポルトガルにて

おおた しおん
太田 糸音 [ピアノ] 2019、2020年度奨学生
東京音楽大学、名古屋芸術大学大学院



第8回仙台国際音楽コンクールにて第三位をいただきました。古典派をメインに3曲のピアノ協奏曲をオーケストラと短期間で演奏したことは今後には欠かせない経験となりました。またポルトガルではコインブラ・ワールド・ピアノ・ミーティングに参加し、第一位をいただきました。ドイツでの留学生活が始まり1年。2年目を前にして、結果以上に出会う人々とのあたたかいご縁を感じる機会が増えていることを心から嬉しく思います。



写真提供/仙台国際音楽コンクール事務局



上/仙台国際音楽コンクール、
ファイナルラウンドにて
下/コインブラ・ワールド・ピアノ・
ミーティングでの結果発表



光陰矢の如し

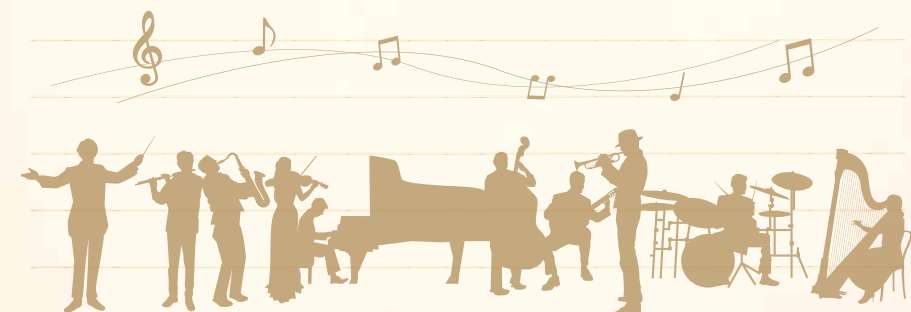
おかやま りえ
岡山 理絵 [オーボエ] 2005~2008年度奨学生
ドイツ国立マンハイム音楽大学、ヴュルツブルク音楽大学



ドイツ留学から帰国してから10年以上が経ちましたが、まさかそんなに時間が経ってしまったのかと信じられないような気持ちです。帰国直後からオーケストラでのお仕事をいただくも演奏することの難しさに右往左往、七転八倒(!?)の日々の繰り返し。それは今でも変わらないのですが...。そして帰国1年後に東日本大震災があり、ここ数年の世界の状況に、今見ているものと、留学以前に見ていたものが大きく違っているような気がします。今は、新しく出会った人たちが昔からお世話になっている方々に恵まれ、演奏活動ができていることを心からありがたく思っております。



上/所属する神戸市室内管弦
楽団の室内楽シリーズのコン
サート
下/地元滋賀での子ども向け
コンサート





ルーム ミュージック ファンデーション ブログ

奨学生レポートより



やました かなひ

山下 愛陽 [クラシックギター]

2020、2021年度奨学生

ベルリン芸術大学、ニュルンベルク音楽大学



2020年度9月よりの奨学生期間である2年の間に、私はベルリン芸術大学修士課程を修了し、その後はニュルンベルク音楽大学に進学し、以前から師事したかったリュート及びテオルボ奏者のビョルン・コレル氏のもとで現在古楽を中心に学んでいます。この2年間は技術的なことよりも、演奏解釈についての教授との議論を通して曲の分析や音楽理論的理解が深まり、また参考文献を読むときのポイントを勉強したことにより、限られた時間でより多くの知識を身に付けることができるようになりました。

異国に留学して、語学習得やビザ、各種手続き、文化の違いに戸惑ったりと苦労も多いですが、下手なドイツ語で恥をかきながらも、とりあえず片言でも積極的に人々に話しかけた結果、知人が増え、困ったときに手を差し伸べてくれる人々に恵まれたとても幸せな留学生活を送っています。例えば、2021年に受けたコンクールの会場で自分から声をかけて、愛用している弦メーカーとスポンサー契約を結び、今後弦を無料で提供していただけることになったことなどです。音楽大学での勉強は、周囲のレベルが高ければ高いほどお互いに刺激あって目標をさらに高めていくことができる一方、似たような環境で普段生活しているため、挑戦することや与えられる課題、アドバイスも類似してくるため、そのなかで自分なりの工夫を凝らし、自分らしい演奏や演奏活動内容というのを在学中から追求することが大切だと、ここ数年強く感じています。演奏技術の高い人がたくさんいるなかで、音楽の解釈表現はそれぞれ異なり、それこそが面白く肝心なところですので、はっきりとした自分の意見、希望に沿う形で探求することを常に忘れないようにしたいです。これは、これから音楽を勉強する方々にもぜひ重要視していただきたい観点です。私はドイツでの生活も8年目に入り、今後も引き続き、クラシック音楽の中心であるヨーロッパを拠点に、世界各地で自分らしい演奏ができるように精進していこうと思っています。同じ曲でも向き合うたびに新たな発見があり、完璧なゴールというものがないのが音楽家の人生だと思います。自己満足に陥ったり、次なる目標を見失ったりすることのないよう、常に向上心を忘れない演奏家になりたいです。



2022年5月ニュルンベルク音楽大学において
ヴィラ・ロボスの協奏曲を演奏



メキシコ国際ギターフェスティバル、
マスタークラスの様子



メキシコ国際ギターフェスティバルの
コンサート会場

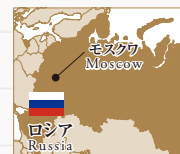


やまもと あきひさ

山本 明尚 [音楽学]

2020、2021年度奨学生

ロシア国立芸術学研究所



いま私は、2022年の9月から始まった学期をロシアの国立芸術学研究所での最終学年に、そして来年4月から始まる学期を日本の東京藝術大学大学院の最終学年にするという目標のもと、2つの博士論文の執筆に邁進しております。また、短期目標としてさまざまな学会に参加し、査読論文を執筆し、最終目標に向けて徐々に正確な基準を合わせていくところです。

2022年8月の下旬に行われたアテネでの国際音楽学会 International Musicological Society で発表してまいりました。世界中からいらした学者の方から、「あなたの研究の成果はものすごく意外で興味深い、ぜひ頑張ってください」といったエールをいただき、大変励みになりました。発表以外にも、一週間ほどアテネに滞在する機会はその間と思い、毎日アクロポリスや各所の博物館・名所を巡り、とてもいい思い出になりました。海沿いの気候がそうさせるのか、日々昼寝、土砂降りのにわか雨に降られる毎日でしたが、西欧の歴史と文化の原初を感じられる、感動的な体験でした。写真を皆様におすそ分けしたいと思います。

10月には、私が翻訳したチャイコフスキー『実践的和声学習の手引』が出版されました。こうした本を出すのは初めてなのですが、まさかチャイコフスキーと自分の名前が並ぶとは思いませんでした。やや専門的な内容ですが、ぜひお手にとっていただくと幸いです。

また、同じく10月には「La Nuit musique」という香水ブランドから発売されたスクリャービンの香水に、スクリャービンを専門分野のひとつとする研究者として文章を寄稿させていただきました。実は香水が好きなので、大変楽しい仕事でした。こちらでもぜひ機会があればお手にとっていただくと幸いです。

博士課程の学生、学者の卵に過ぎない私ですが、日本やロシアにとどまらない世界中の人々と自分の研究を通じてお知り合いになれ、いろいろなジャンルの仕事をいただけるようになり、徐々に自身の研究活動が軌道に乗ってきた感覚があります。気を抜かず、この調子で頑張っていきたいと思えます。もしよろしければ、山本明尚というロシア音楽を研究している音楽学者がいることを覚えておいていただければ幸いです！



ヘーパリストス神殿



パルテノン神殿



国際音楽学会(アテネ)での発表の様子

チャイコフスキー
『実践的和声学習の手引』





ローム ミュージック ファンデーション ブログ

奨学生レポートより



なかはし ゆうき

中橋 祐紀 [作曲]
2020、2021年度奨学生
パリ国立高等音楽院



移動中に曲のアイデアをメモしている様子

2022年3月には音楽院内にて初演が続き、少し慌ただしい生活でしたが、それが終わってからはかなり時間にゆとりができました。この間に行ったこと、考えたことを率直に書いてみたいと思います。まず試験の内容について簡単に紹介します。2022年現在の作曲科第一課程の2年次では大きく分けて3つの試験を受けることになります。コンピューターを用いた音楽制作に関する試験、今年度制作した作品についてプレゼンをする試験、そして音楽分析の試験です。いずれも口述試験で、自分の知識や意見をよく整理しておく必要があります。自分にとってはもちろん簡単な試験ではなかったのですが、音楽の構造や特質についてフランス語で考えをまとめるというトレーニングを通して、音楽をより分析的に聴く力が身についたように思います。加えて、音楽分析のための、フランス語ならではの表現にたくさん触れられることは、自分の知的好奇心を大いに刺激するものでした。

試験の他にもうひとつ取り組んだことがあります。最初に述べたように、春頃から生活にすこし時間ができたのですが、これをいい機会と捉え、ジュネーブ国際音楽コンクールに挑戦することに決めました。結果的に、幸運にもファイナリストに選出され、今年秋に演奏されることが決まりました。

作曲にはしばしば困難が伴います。例えば、基本的にこのような作曲コンクールでは作品が演奏されることのほうが稀で、少なくとも私にとっては、最初から発表機会を当てにして参加できるものではありません。しかし、音符を紙に書いて自分の思考を形にするという作業は、生涯を通じて大切にできる、誰にも奪われないものであり、そしてそれがときどき他の人の目に留まり、新しい音楽を聴くよろこびを分かち合えるのであれば、これほど楽しいことはありません。ここ2年間の留学生生活を振り返ると、地道に作曲に取り組む期間が長かったように感じますが、ときどき与えられる発表機会ではすばらしい演奏に恵まれ、また好意的な反応もいただきました。そうしたなかで、私が大切にすべき作曲への取り組み方を再確認できたように思います。

※レポート中に記述のあるジュネーブ国際音楽コンクール(2022年10月/スイス・ジュネーブ)にて、中橋さんは第2位を受賞



ローム ミュージック ファンデーション ブログでも、
現役奨学生からのレポートや財団の事業の紹介などを掲載しています。
<https://micro.rohm.com/jp/rmf/blog/>



ロームシアター京都
ROHM Theatre Kyoto

ロームシアター京都 ミュージックサロン

ロームシアター京都の開館と同日である2016年1月10日にオープンしたミュージックサロン。音楽とさまざまな形で触れ合うことができる施設として各種イベントを開催し、これまでに多くのお客様にご来場いただいています。

■「ミュージックサロン」施設概要

場 所：ロームシアター京都 パークプラザ3階東側

面 積：約96㎡

定 休 日：臨時休館日を除き年中無休

営 業 時 間：10:00～19:00

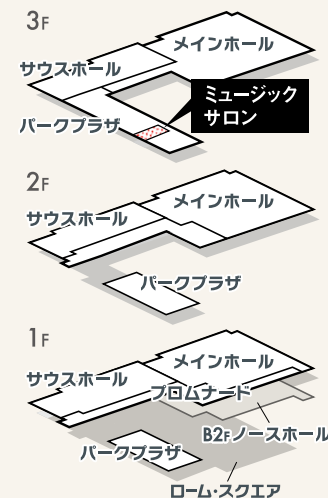
※定休日や営業時間は新型コロナウイルス感染症のため変更している可能性があります。

利 用 料 等：無料、原則出入り自由(一部整理券が必要な場合あり)

主 要 設 備：7.1chサラウンドシステム、120インチスクリーン
プロジェクター、演奏スペースなど

主な開催内容：コンサートなどの映像・音源の放映、
イベント(コンサート、セミナー、資料展示等)の開催

ロームシアター京都 館内マップ



©上田祐勢



過去のイベントの様子(2019年度スカラシップ展より)

奨学生一覧

(各分野五十音順)

ヴァイオリン／115人

青木 尚佳
青谷 友香里
アシュリー マリア アヤ
東 珠子
荒井 優利奈
安彦 千恵
伊賀 あや
石橋 幸子
石原 悠企
泉原 隆志
磯 絵里子
糸井 真紀
伊藤 文乃
井上 奈央子
上野 明子
植村 太郎
植村 菜穂
植村 理葉
牛草 春
エリック・シューマン
尾池 亜美
王 中男
大江 馨
大岡 仁
大島 莉紗
大関 万結
大谷 玲子
岡崎 慶輔
岡本 誠司
小川 恭子
小野 明子
榎本 大進
加野 景子
神尾 真由子
神谷 未穂
川村 奈菜
木嶋 真優
岸本 萌乃加
北川 千紗
橘和 美優
城戸 かれん
木村 悦子
清永 あや
日下 紗矢子
倉富 亮太
黒川 侑
郷古 康
小林 杏成
小林 美緒
小林 美樹
佐橋 まどか
佐々木 つくし
佐藤 久成
篠原 悠那

志満 直美
島田 真千子
島原 早恵
清水 有紀
白井 麻友
菅井 京子
鈴木 愛理
鈴木 舞
周防 亮介
関 朋岳
高木 凜々子
滝 千春
瀧村 依里
田島 悠子
立上 舞
田中 晶子
田中 晶子
谷本 華子
玉井 菜穂
千葉 水晶
辻 彩奈
坪井 夏美
東條 太河
土岐 祐奈
長尾 春花
中島 麻
中村 太地
成田 達輝
西川 茉莉奈
西澤 和江
二瓶 真悠
服部 百音
林 悠介
原 麻里亜
原田 亮子
東 亮汰
福田 麻子
福田 廉之介
藤江 扶紀
外村 理紗
本田 莉愛
前田 志乃
正戸 里佳
松川 暉
松田 理奈
三上 亮
村田 美英
毛利 文香
守屋 剛志
森山 まひる
安田 理沙
矢野 玲子
山根 一仁
梁 美沙
弓 新

湯本 亜美
吉江 美桜
吉田 南
吉本 梨乃
米元 響子
渡邊 ゆづき
ヴィオラ／13人
赤坂 智子
有富 萌々子
大野 若菜
金丸 葉子
坂口 翼
杉田 恵理
瀧本 麻衣子
田原 綾子
中島 悦子
原 麻理子
牧野 葵美
山崎 智子
渡邊 千春
チェロ／42人
伊東 裕
伊藤 悠貴
泉 優志
上野 通明
植村 葉夏
江口 心一
遠藤 真理
岡本 侑也
瀧本 実里
香月 麗
加藤 文枝
門脇 大樹
上村 文乃
唐沢 安岐奈
熊澤 雅樹
佐々木 蘭望
笹沼 樹
佐藤 晴真
佐山 裕樹
柴田 花音
高木 慶太
辻本 玲
鳥羽 咲音
中木 健二
長谷川 彰子
林 裕
檀本 瑠音
平野 朝水
藤井 泉
藤原 秀章
堀江 牧生
松山 翔子
マーク・シューマン
水野 優也

三井 静
峰本 更
宮田 大
森田 啓佑
山上 ジョアン 薫
山本 徹
横坂 源
渡邊 方子
クラシックギター／6人
齋藤 優貴
谷辺 昌央
藤元 高輝
松本 大樹
山下 愛陽
山田 唯雄
ヴィオラ・ダ・ガソバ／1人
酒井 淳
フルート／23人
阿部 礼奈
井坂 実樹
石井 希衣
岩瀬 桐子
上野 星矢
大久保 彩子
久保 順
倉田 優
小山 裕幾
清水 伶
庄田 奏美
瀧本 実里
竹山 愛
中村 薫
萩原 貴子
藤井 香織
本宮 湖心
増本 竜士
森岡 有裕子
八木 瑛子
山本 英
若林 かをり
渡邊 玲奈
オーボエ／5人
荒 絵理子
岡山 理絵
齋藤 美恵子
田代 奏子
本多 啓佑
クラリネット／10人
梅原 希枝
金子 平
小林 知世
小山 洋子
白子 正樹
辻本 聡子
中川 知美

原田 綾子
福田 さあや
吉田 誠
サクソフォン／2人
住谷 美帆
中島 諒
ファゴット／4人
小山 莉絵
中野 陽一郎
藤村 踊子
保崎 佑
トランペット／3人
菊本 和昭
佐藤 友紀
三村 梨紗
トロンボーン／2人
清水 真弓
山本 浩一郎
ユーフォニアム／2人
安東 京平
佐藤 采香
打楽器／5人
池上 英樹
岩見 玲奈
沓野 勢津子
通崎 睦美
福山 直子
ハープ／5人
景山 梨乃
シュレイファー 弓子
高野 麗音
林 千佳世
福井 麻衣
パイプオルガン／1人
椎名 雄一郎
チェンバロ／2人
北御門 はる
脇田 英里子
ピアノ／149人
秋山 紗穂
浅野 未麗
有吉 亮治
五十嵐 薫子
石井 楓子
石川 武蔵
石田 啓明
石村 純
乾 絵美
今井 彩子
今田 篤
入江 一雄
岩本 恵理
梅崎 秀
梅村 知世
江澤 茂敏
江尻 南美

岡田 奏
大井 浩明
大崎 結真
太田 糸音
大西 真由子
岡本 麻子
奥田 暁仁
奥村 友美
小沢 麻由子
尾城 杏奈
越知 晴子
小野田 有紗
海瀬 京子
開原 由紀乃
梯 剛之
柏原 佳奈
加藤 大樹
加藤 洋之
加野 瑞夏
神野 千恵
亀井 聖矢
河内 仁志
川崎 翔子
川島 基
川田 健太郎
河村 尚子
菊地 裕介
菊池 洋子
木口 雄人
喜多 宏丞
清塚 信也
日下 知奈
工藤 奈帆美
久保 千尋
倉澤 杏菜
黒岩 航紀
黒田 哲平
桑原 志織
小井土 文哉
高 美希子
壽 千明
小林 愛実
小林 有沙
小林 海都
小林 海都
阪田 知樹
坂本 真由美
崎谷 明弘
佐々木 宏子
佐竹 裕介
佐藤 卓史
佐藤 彦大
佐藤 麻理
佐藤 元洋
佐野 まり子

紫垣 英二
志鷹 美紗
釈迦郡 洋介
白川 多紀
進藤 実優
菅野 雅紀
鈴木 謙一郎
住友 郁治
関本 昌平
芹澤 佳司
反田 恭平
高田 匡隆
高橋 礼恵
内匠 慧
田中 香織
田中 正也
谷 昂登
田村 豊
千葉 遥一郎
津嶋 啓一
津田 裕也
鶴見 彩
土居 知子
中尾 純
中川 優芽花
中桐 望
中島 彩
長瀬 賢弘
中元 千鶴
奈良 希愛
新美 光映
沼澤 淑音
野上 真梨子
萩原 麻木
橋本 尚
服部 慶子
花岡 克典
浜野 与志男
林田 麻紀
樋口 一朗
久末 航
日高 志野
平松 悠歩
福田 和子
藤田 真史
古海 行子
真隅 政大
松尾 久美
松岡 淳
松本 和将
丸山 耕路
丸山 風乃
萬谷 衣里
Elezovic MIA
三浦 友理枝

三戸 あけみ
三宅 麻美
宮下 彩子
宮田 理生
務川 慧悟
村田 理夏子
村松 珠美
望月 晶
森田 義史
矢島 愛子
山縣 美季
山田 剛史
山本 亜希子
吉兼 加奈子
ティーテン 吉川 右希子
吉田 友昭
吉武 優
吉見 友貴
米津 真浩
李 早恵
リード 希亜奈
脇岡 洋平
オルガン／2人
福本 茉莉
宗 かおり
声楽／64人
石井 教子
市原 愛
乾 麻里子
上杉 清仁
江口 輝博
大島 京子
岡田 昌子
加藤 史幸
加藤 麻衣
上島 緑
川島 幸子
川原 成子
木下 周子
木下 美穂子
木村 善明
木村 里花子
蔵田 みどり
栗原 峻希
小玉 晃
小林 沙羅
近藤 圭
崔 宗宝
坂本 知亜紀
志摩 大喜
清水 俊徳
清水 勇磨
周 江平
杉原 かおり
鈴木 愛美

高橋 維
田邊 織恵
谷口 伸
谷村 由美子
田村 麻子
趙 非
津岡 直樹
辻 裕久
寺田 功治
田 大成
富岡 明子
中川 恵美里
中嶋 俊晴
中島 康晴
嶋海 真希子
林 佑子
深瀬 廉
藤木 大地
藤谷 佳奈枝
本田 智衣
又吉 秀樹
松島 理紗
松原 友
真野 路津紀
溝渕 悠理
峯島 望美
宮里 直樹
森野 美咲
山下 新吾
山本 美央
吉澤 淳
吉田 一貴
吉田 貴子
監 野流
李 恩敬
指揮／22人
栗辻 聡
石川 星太郎
伊藤 翔
垣内 悠希
川本 真司
岸本 有理
鬼原 良尚
齊藤 一郎
阪部 慎太郎
篠崎 靖男
下野 竜也
杉本 優
橋 直貴
田中 祐子
寺岡 清高
阪 哲朗
三ツ橋 敬子
村上 寿昭
村中 大祐

森 香織
森口 真司
森田 宏樹
作曲／24人
阿部 俊祐
稲森 安太己
今井 智景
小野田 健太
北爪 裕道
木下 正道
小出 稚子
酒井 健治
坂田 直樹
塚本 瑛子
中川 佑織
中橋 祐紀
夏田 昌和
朴 炳五
福丸 光詩
松宮 圭太
松本 直祐樹
ママトウメル
向井 響
向井 航
山口 紘
李 大軍
渡邊 愛
渡辺 裕紀子
教会音楽／1人
小山田 薫
音楽学／18人
金 士友
貞方 マキ子
周 耘
白石 悠里子
菅沼 起一
関本 菜穂子
園田 みどり
高野 裕子
東田 範子
戸祭 哲子
中村 伸子
西村 理
畑野 小百合
早坂 牧子
丸山 瑠子
村田 圭代
山本 明尚
李 金叶
オペラ演出／4人
井原 広樹
郭 才銀
馬 金泉
森岡 純子



ローム ミュージック フレンズ No.14

ーローム ミュージック ファンデーションの音楽文化支援情報誌ー

発行 2022年11月

企画・発行：公益財団法人 ロームミュージックファンデーション

〒615-0046 京都市右京区西院西満崎町44

TEL (075) 311-7710 FAX (075) 311-0089

<https://micro.rohm.com/jp/rmf/>

協 賛：ローム株式会社

この情報誌に掲載の写真・文章の無断転載を禁じます。

2022.11.7K

UD
FONT

